

勝壯鹿乃	真々乃入江専	打靡	玉藻茹兼	手兒名志所念	万葉集 卷三 433 山部宿禰赤人
勝鹿の	真間の入り江に	うち靡く	玉藻刈りけむ	手兒名し思ほゆ	
かつしかの	ままのいりえに	うちなびく	たまもかりけむ	てこなしおもほゆ	
葛飾の	真間の入り江に	靡いている	美しい藻を刈ったという	手兒奈が偲ばれる	

<https://kochi-esc.sakura.ne.jp/wordpress/%e4%b8%87%e8%91%89%e3%81%ae%e5%9c%b0%e5%ad%a6/>